

嵐山

高垣 優輝

(2019 年度入学 鈴木ゼミ 3 期生)

京都の観光名所と言われると思いつく場所は何だろうか。私は嵐山と答える。嵐山、この場所は京都の代表的な観光名所の1つである。右京区と左京区にまたがる。標高は381.5mである。古くから嵐山は歌枕として多くの歌に詠まれているように、春は桜、秋は紅葉の名所として有名である。この山の近辺には多くの観光スポットがある。嵐山のシンボルともされる渡月橋、竹の間から光が差し込む竹林、1994年に世界文化遺産に登録された天龍寺、他の観光スポットに隠れているが隠れ名所大悲閣千光寺など様々ある。題材を嵐山にした理由は、私はこの地へ秋に2度訪れたことがある。当時は渡月橋や、嵐電嵐山駅、個人的に訪れてお気に入りの嵐山よしむらと言うお蕎麦屋、大悲閣千光寺、竹林の小怪に訪れた。嵐山には多くの思い出が詰まっている。そんな嵐山の観光スポットを紹介したいと思う。



1つ目は「渡月橋」。ここは言うまでもなく誰もが知っているだろう。嵯峨野と嵐山を隔てて流れる大堰川に架かる橋である。渡月橋より上流が「保津川」、下流が「桂川」と呼ばれている。古くは葛野川と呼ばれ、大堰川と呼ばれるのは、5世紀後半に、この地域で大きな力を持っていた秦氏が川に大きな堰を作り、灌漑用水を引いたことに由来する。この橋は法輪寺の道昌によって架橋



したのが最初とされている。ビジュアルも現在とは異なり、朱塗りの壮麗な橋であった。当時は現在の位置よりも100m程上流にあり、名称も「法輪寺橋」と名付けられた。現在の位置には角倉了以が架けたとされ、現在使われている橋は昭和9年6月に完成したものである。亀山上皇が、橋の上空を移動していく月を眺め、月が橋の上を渡るように見えることから、「くまなき月の渡

るに似る」と詠われたことから渡月橋と名付けられた。橋脚は鉄筋コンクリートで、欄干部分は和製ヒノキでできている。この付近ではボート遊び、屋形船の遊覧、そして夏

には鵜飼が楽しめる。大堰川では8月16日に灯籠流し、11月にもみじ祭を催すが、渡月橋はこのような行事の中心となっている。



2つ目は「大悲閣千光寺」。ここは京都の西、渡月橋から大堰川の右岸を約1km上流に上ると大悲閣千光寺に上がる参道の石段が見える。そしてこの階段を登ると、嵐山中腹に位置する千光寺の至り、山門の脇を上がると展望台に出ることができる。私も秋にこの千光寺まで歩きました。この時期は観光客で溢れており、保津川下りのしている船や、船遊びをしている人々がいた。道中には開けた場所

もあり、撮影スポットもある。

江戸時代の豪商、角倉了以が大堰川を開削する工事で亡くなった人々を弔うために嵯峨の中院にあった千光寺を、移転し建立させたものである。源信の作と言われる千手観音菩薩を本像としている。境内にある大悲閣は大堰川の切り立った岩肌に立つ観音堂で、嵐峡の絶景を眺めることができる。山号を嵐山、寺号を大悲閣千光寺と言い、当初は天台宗、文化5年以降は黄檗宗となった。かつて大悲閣の一室には遺命により作られた了以像が安置されていた。それは巨縄を巻いた形の円座に坐し、石斧を手にして右立て膝の構えで保津川を望む形でした。了以自身も大悲閣に住み、開削した諸川の通船の便益を念じたと言われている。

昭和34年の伊勢湾台風が発生。被害は大きく、千光寺本堂は1978年にやもなく解体、大悲閣は屋根が飛び、建物自体も激しく歪む。長年千光寺は仮本堂、大悲閣はワイヤーに支えられていたが、2012年より大悲閣の改修工事が始まり、現在の姿になった。

3つ目は「竹林の小径」。ここは野宮神社から天龍寺北門を通り大河内山荘へ抜ける約400mの道である。手入れされた竹林が道の両脇に続く、京都を代表する観光名所。平安時代には貴族の別荘地だったと言われている。晴れた日には木漏れ日が心地よく、太陽のない日は屋でも薄暗くなる。



初冬には竹林の両側がライトアップされる「嵐山花灯路」が開催される。

「嵐山花灯路」とは毎年冬に行われるものである。21世紀から始まる京都の夜の新たな風物詩となることを目指す。平成15年3月から東山地域において、「灯り」をテーマとする新たな観光資源の創出事業である。京都を代表する寺院・神社をはじめとする歴史的な文化遺産やまちなみなどを、日本情緒豊かな陰影のある露地行灯の灯と花により思わず歩きたくなる路、華やぎのある路を演出している。平成17年12月からは嵯峨・嵐山地域においても実施しており、京都の風物詩として定着している。



嵯峨・嵐山地域においても実施しており、京都の風物詩として定着している。

4つ目は「嵐山よしむら」と言うお蕎麦屋。ここは渡月橋のすぐ近くにある。渡月橋と大堰川を眼前に、嵐山ならではの四季折々の風光明媚な景観を楽しめる。多くの文人が集ったこの邸では、北大路魯山人直筆の「撫松」の書がお客様を迎える。全国の生産者から直接仕入れた玄蕎麦を年間を通して低温保管している。自社で脱皮した剥きたての最も良い状態の蕎麦を風味を損なわないよう石臼で挽いて、25名以上の職人たちが全て手打ちしている。また、お米と蕎麦を炊き込んだ二穀米、自家製のそば麴を使った料理、そば茶スイーツなど、蕎麦の様々な楽しみ方を味わうことができる。

よしむらは西山の麓に「本店嵐山よしむら」東山の麓に「別庵よしむら清水庵」北山の麓に「北之蔵よしむら北山楼」そして、洛中に「そば料理蕎麦の実よしむら」を構えている。嵐山に訪れた際は是非この「本店嵐山よしむら」に訪れてみてほしい。

どうだろう、嵐山の魅力は伝わっただろうか。今回紹介した以外にも多くの観光スポットがこの嵐山には存在する。春夏秋冬でそれぞれ訪れたときの良さが異なり、毎回新しい発見がある、それが嵐山である。私が訪れた場所もほんの一部にしかすぎない。ぜひ、多くの人に嵐山に訪れてもらい、もっと嵐山の魅力について知ってもらいたいと思う。

どうだろう、嵐山の魅力は伝わっただろうか。今回紹介した以外にも多くの観光スポットがこの嵐山には存在する。春夏秋冬でそれぞれ訪れたときの良さが異なり、毎回新しい発見がある、それが嵐山である。私が訪れた場所もほんの一部にしかすぎない。ぜひ、多くの人に嵐山に訪れてもらい、もっと嵐山の魅力について知ってもらいたいと思う。